

将来にわたり、安心・安全・安価な水道を維持するため、水道の広域化について協議しています。

課題 1

水道事業は、原則、水道料金で運営しており、料金収入の減少は経営に大きく影響します。

人口減少などにより、料金収入が大幅に減少 約30年後

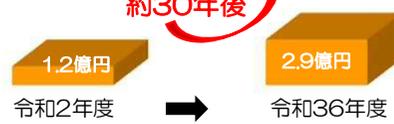


給水収益の将来見通し (今の料金で推移した場合)

課題 2

整備した年代を考えると、施設の更新が今後本格化するため、多額の費用が必要となります。

施設の老朽化などにより、更新に多額の費用が必要

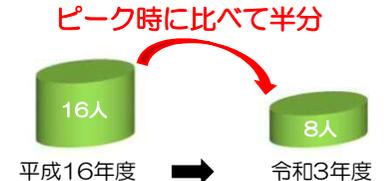


更新費用の将来の見通し

課題 3

水道職員は、年々減少しており、人材不足が生じています。このままでは、水道サービスの低下を招くおそれがあります。

水道事業を支える人材が不足

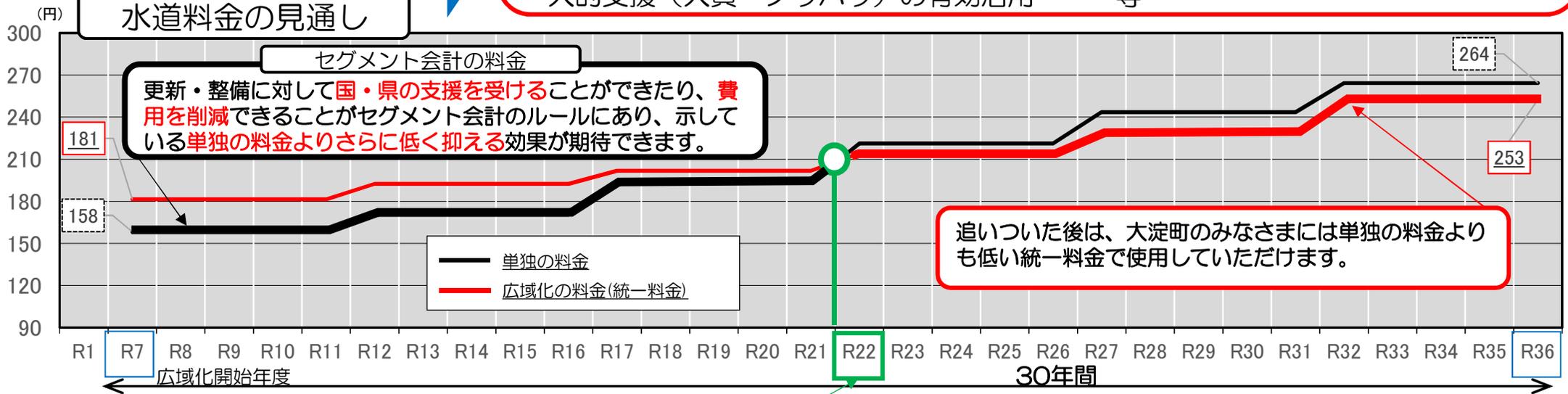


職員減少による人材不足

広域化の効果

- 施設の更新や整備に国・県の支援を受けられ、耐震化・強じん化等が進む
- 災害時や不慮の事故による断水を未然に防ぐため緊急時に備えた対応を強化
- 広域化後も、一定期間（最大30年間）別料金設定で統一料金よりも安い料金で使用が可能（セグメント会計）
- 人的支援（人員・ノウハウ）の有効活用 等

水道料金の見通し



見通し期間の30年間（令和7～36年度）において、大淀町の水道料金は、広域化開始の令和7年度から15年後の令和22年ごろに広域化の統一料金に追いつく見通し